

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学校	教科	種 目	学年
107-120	高等学校	商業科	原価計算	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		

1. 編修の基本方針

- (1) 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点から、原価計算の基礎につづいて、実際原価計算から標準原価計算、直接原価計算へと段階的に学習を進めることができるように編や章を設定・配置した。また、各章冒頭にその章で学習する内容をカラーイラストと短文で記載し、より深い理解を得られるようにした。(第1号)
また、そのイラストにおいては、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるという観点から、男女の社員が協力し合いながら業務を進めている様子を示した。(第3号)
- (2) 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うという観点から、原価計算をとりまく場面や、お金の流れについて、より深い理解が得られるよう、解説部分にカラーイラストや図解を取り入れるとともに、勘定連絡を示し、仕訳の下には仕訳作成の思考プロセスを示すことにより、考え、理解しながら原価計算を学習できるようにした。(第1号、第2号)
- (3) 自主及び自律の精神を養うという観点から、例題を中心に、章末の取引まとめ、ミニテストまでの内容をつなげ、主体的に学習が進められるよう配慮した。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
口絵	伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するという観点と、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うという観点から、「個別原価計算(部門別)」と「総合原価計算」について、実際に日本国内で作られている製品とその工場の現場の写真を使用した図解を示した。(第2号、第5号) また、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点から、総合原価計算表などの帳票類を工場の現場写真とあわせて示した。(第1号)	口絵1、2ページ 口絵3、4ページ
	幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点から、「原価とは」として、製造業だけでなく、サービス業における原価について、写真で示した。(第1号)	口絵6ページ
綴じ込み	幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点から、「部門別個別原価計算のまとめ」「工業簿記の勘定連絡のまとめ」として、全体の流れを俯瞰できるようにした。(第1号)	口絵5ページ ～綴じ込み (前)1～4、 綴じ込み(後 ろ)1～4

学習のまえに	公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うという観点から、原価計算の学習を通じて、未来のために貢献する必要性、その一助として活躍することに対する意義と期待について記述した。(第3号)	ま え づ け 《2》 ページ
	自主及び自律の精神を養うという観点から、本書の構成を示すことで、主体的な学習ができるよう、配慮した。(第2号)	ま え づ け 《2》 《3》 ページ
第1編 原価計算の基礎 第1章 原価と原価計算 第2章 原価計算のあらまし 第3章 工業簿記の勘定連絡	幅広い知識と教養を身に付けるという観点から、原価計算の基礎について図解を交えて記述した。(第1号)	1～34ページ
	自然を大切に、伝統と文化を尊重するとともに、創造性を培うという観点から、木目調のピアノや、ロボット・ドローンなどを例示に使用した。(第2号、第4号、第5号)	12、15ページ
	幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点から、工業簿記の勘定連絡について一連の例題を通じて解説し、最後に記帳へとつなげた。(第1号)	19～33ページ
	自主及び自律の精神を養うという観点から、各章末に例題と連動したミニテストを掲載し、主体的に学習を進めやすいよう配慮している。(第2号)	7、17～18、 34ページ
	幅広い知識と教養を身に付けるという観点から、費目別計算の数字の流れや帳簿の記入方法について理解を深めるため、例題と図解で示した。(第1号)	35～86ページ
第2編 原価の費目別計算 第4章 材料費 第5章 労務費 第6章 経費	幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点と、自主及び自律の精神を養うという観点から、仕訳の下に逐一仕訳の思考回路を示し、学習者の理解を深めるとともに、自主的な学習を進めやすいように配慮した。(第1号、第2号)	35～86ページ
	職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うという観点から、各費目の分類と例示につき、できるだけ実務に即して掲載した。(第2号)	36～38、56～ 58、76～78ペ ージ
	幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点から、「給与計算期間と原価計算期間のズレの調整」など「プラスα特別講義」示し、を本文とあわせて読むことによりより深い理解を得られるようにした。	63ページ
	自主及び自律の精神を養うという観点から、各章末に学習のまとめと、例題と連動したミニテストを掲載し、主体的に学習を進めやすいよう配慮している。(第2号)	53～55、73～ 75、85～86ペ ージ
	幅広い知識と教養を身に付けるという観点から、個別原価計算、部門別計算、各種総合原価計算の、数字の流れや帳簿の記入	87～224ペー ジ
第3編 原価の部門別計算と製品別計算 第7章 個別原価計算		

<p>第8章 部門別個別原価計算 第9章 総合原価計算 第10章 工程別総合原価計算 第11章 総合原価計算と減損</p>	<p>方法について理解を深めるため、例題と図解（適宜、ボックス図やシュラッター図などを使用）、イラストで示した。（第1号）</p>	
<p>・仕損じの発生など</p>	<p>幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点と、自主及び自律の精神を養うという観点から、仕訳の下に逐一仕訳の思考回路を示し、学習者の理解を深めるとともに、自主的な学習を進めやすいように配慮した。（第1号、第2号）</p>	<p>88～224ページ</p>
	<p>幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点と、自主及び自律の精神を養うという観点から、各種帳票と勘定の関係、各種帳票の作成手順、各種帳票の仕組みについて、図解で示した（第1号）</p>	<p>88～224ページ</p>
	<p>自主及び自律の精神を養うという観点から、各章末に学習のまとめと、例題と連動したミニテストを掲載し、主体的に学習を進めやすいよう配慮している。（第2号）</p>	<p>116～124、 143～148、 178～183、 197～199、 218～224ページ</p>
<p>第4編 製品の完成・販売と決算 第12章 製品の完成と販売 第13章 決算と本社工場間の取引</p>	<p>職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うという観点から、製品の完成と販売、決算、本社工場間の取引について、実務に即して記述した。（第2号）</p>	<p>225～256ページ</p>
	<p>幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点と、自主及び自律の精神を養うという観点から、工業簿記の財務諸表作成における、数字の流れを示し、学習者の理解を深めるとともに、自主的な学習を進めやすいように配慮した。（第1号）</p>	<p>235～245ページ</p>
	<p>自主及び自律の精神を養うという観点から、各章末に学習のまとめと、例題と連動したミニテストを掲載し、主体的に学習を進めやすいよう配慮している。（第2号）</p>	<p>232～234、 250～256ページ</p>
<p>第5編 標準原価計算 第14章 標準原価計算（その1） 第15章 標準原価計算（その2）</p>	<p>幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点と、職業及び生活との関連を重視するという観点から、標準原価計算について、その手続きの流れの全体像を冒頭に示すとともに、それぞれの内容につき、図解やイラスト、例題を使用し、補足説明を側注の吹き出しに掲載することで、学習者のスムーズな理解につながるよう、心がけた。（第1号、第2号）</p>	<p>257～300ページ</p>
	<p>幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点と、自主及び自律の精神を養うという観点から、差異分析、勘定記入、財務諸表作成において手順や流れがわかりやすい図解で示した。（第1号）</p>	<p>269～294ページ</p>

	自主及び自律の精神を養うという観点から、各章末に学習のまとめと、例題と連動したミニテストを掲載し、主体的に学習を進めやすいよう配慮している。(第2号)	266～268、 295～300ページ
第6編 直接原価計算 第16章 直接原価計算(その1) 第17章 直接原価計算(その2)	幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点から、全部原価計算と直接原価計算の損益計算書の比較や、CVP分析、損益分岐点売上高などについて、図解を用いて解説している。(第1号)	301～321ページ
	幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点から、原価の固変分解(高低点法)、損益分岐点比率・安全余裕率について、発展学習として掲載した。その際、それまでの記述とシームレスな記述とし、図解をもちい、随時側注などで補足することで、学習者のスムーズな理解につながるよう、心がけた。(第1号)	316～319ページ
	自主及び自律の精神を養うという観点から、各章末に学習のまとめと、例題と連動したミニテストを掲載し、主体的に学習を進めやすいよう配慮している。(第2号)	307～308、 320～321ページ
総合問題	自主及び自律の精神を養うという観点から、第1編～第4編までの学習に対応した演習問題を掲載し、主体的な学習に資するものとした。(第2号)	322～327ページ
付録	幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点から、本文中で学習した原価計算基準につき、掲載した。(第1号)	328～343ページ

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点から、補足事項を側注の吹き出しに掲載し、多角的に理解できるようにした。
- ・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんだ我が国と郷土を愛する態度を養うという観点から、各編の色づかいにつき、日本の伝統色に配慮して選択するとともに、日常の取引はオレンジ系、決算は黄緑系と、学習内容に応じた色選択をした。
- ・植物油インキを使用し、環境に配慮した。

- (備考) 1 ※欄は検定申請時には記入せず、検定合格後に提出する際に記入する。
- 2 「編修の基本方針」欄には、教育基本法第2条に示す教育の目標を達成するために編修の基本方針とした点を記入する。
- 3 「対照表」欄には、図書の構成・内容と教育基本法第2条各号に示す教育の目標との対照について記入する。詳細は次のとおりとする。
- ① 「特に意を用いた点や特色」欄には、教育基本法第2条各号に示す教育の目標を達成するために、図書の構成や内容において編修上特に意を用いた点や特色について記入する。その際、教育基本法第2条各号のうち、特に関連が深いものを文末に示す。(例：第〇号)
- ② 「該当箇所」欄には、上記内容に対応する具体的な箇所が分かるように、主な該当箇所のページ(例：〇ページ)を記入する。
- ③ 必要に応じ、例で示している様式を参考にして、「対照表」欄を適宜工夫して作成しても差し支えない。
- 4 「上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色」欄には、上記の記載事項以外に、教育基本法第5条に示す義務教育の目的や学校教育法第21条に示す義務教育の目標、学校教育法第51条に示す高等学校教育の目標などを達成するため、編修上特に意を用いた点や特色などがあれば記入する。
- 5 「編修の基本方針」欄以下の外枠線は、記入しなくても差し支えない。

6 別紙様式第5-1号の分量は5ページ以内とする。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学校	教科	種 目	学年
107-120	高等学校	商業科	原価計算	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

実社会における企業で何が行われているのを把握し、原価計算に関する会計処理や原価情報の活用につき、適正に行う力を養成するという観点から、以下のような工夫を施して編修している。

○第1編「原価計算の基礎」につづいて第2編以降で、実際原価計算、標準原価計算、直接原価計算へと段階的に学習を進められるように構成に配慮した。

○各章の冒頭では、これから何を学習するのかという導入部分につき、2コマイラストと文章で解説を加えた。その際、すでに学習した内容との関わりもあわせて解説することで、その都度知識の整理がはかれるようにした。

○数字の流れや全体像を追いながら学習できるように、適宜、手順化し、図解を多用した。

○帳簿や財務諸表類を解説する際には、図解化するとともに、金額の流れについて矢印などで、学習者が容易に理解できるようにした。

○間違いやすい箇所や重要なポイントについては、側注の吹き出しや囲み記事により、別角度からの解説を加えた。また、書籍内であわせて読むと理解が深まる箇所については、当該箇所を明示することで学習に役立てられるようにした。

○例題を中心に、章末のまとめ、ミニテスト、巻末の総合的な記帳問題までの内容をつなげ、これらを利用して反復的に学習することで、学習内容の定着が図れるようにした。

○冒頭や巻末の口絵には、各種原価計算のイメージの図解を掲載し、製造業をめぐる実際についてイメージしやすいようにしている。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
第1編 原価計算の基礎	(1) 原価と原価計算 ア原価の概念 イ原価計算の特色と仕組み	1-34ページ	1
第1章 原価と原価計算			
第2章 原価計算のあらまし			
第3章 工業簿記の勘定連絡			7
第2編 原価の費目別計算	(2) 原価の費目別計算 ア材料費の計算 イ労務費の計算 ウ経費の計算	35-86ページ	9
第4章 材料費			
第5章 労務費			
第6章 経費			3
第3編 原価の部門別計算と製品別計算	(3) 原価の部門別計算	87-224ページ	

第7章	個別原価計算	と製品別計算		11
第8章	部門別個別原価計算	ア個別原価計算と製造 間接費の計算		11
第9章	総合原価計算	イ部門別個別原価計算 ウ総合原価計算		14
第10章	工程別総合原価計算			6
第11章	総合原価計算と減損・仕損じの発生など			5
第4編	製品の完成・販売と決算	(4) 内部会計	225-256ページ	
第12章	製品の完成と販売	ア製品の完成と販売		3
第13章	決算と本社工場間の取引	イ工場会計の独立 ウ製造業の決算		6
第5編	標準原価計算	(5) 標準原価計算	257-300ページ	
第14章	標準原価計算 (その1)	ア標準原価計算の目的 と手続		3
第15章	標準原価計算 (その2)	イ原価差異の原因別分析		8
第6編	直接原価計算	(6) 直接原価計算	301-321ページ	
第16章	直接原価計算 (その1)	ア直接原価計算の目的 と財務諸表の作成		2
第17章	直接原価計算 (その2)	イ短期利益計画への活用		5
計				105

- (備考) 1 ※欄は検定申請時には記入せず、検定合格後に提出する際に記入する。
- 2 「編修上特に意を用いた点や特色」欄には、学習指導要領の総則に示す教育の方針や当該教科の目標を達成するため、編修上特に意を用いた点や特色を記入する。
- 3 「対照表」欄には、図書の構成・内容と学習指導要領に示す「内容」の各事項との対照について、「内容の取扱い」も踏まえて記入する。その際、「該当箇所」欄に、申請図書の該当箇所のページ（例：〇～〇ページ）を記入する。また、必要に応じ、例で示している様式を参考にして、「対照表」欄を適宜工夫して作成しても差し支えない。
- 4 「配当時数」欄には、申請図書で予定している配当授業時数を示すこと。なお、配当授業時数の記載が必要な教科、種目については空欄でよい。
- 5 「編修上特に意を用いた点や特色」欄以下の外枠線は、記入しなくても差し支えない。
- 6 別紙様式第5-2号の分量は5ページ以内とする。

編 修 趣 意 書

(発展的な学習内容の記述)

※受理番号	学校	教科	種 目	学年
107-120	高等学校	商業科	原価計算	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		

ページ	記 述	類 型	関連する学習指導要領の内容 や内容の取扱いに示す事項	ページ数
316頁～ 317頁	第17章 5 原価の固定分解	1	「管理会計」 (2) 短期利益計画 ア 原価予測の方法	2
318頁～ 319頁	第17章 6 損益分岐点比率と安全余裕 率	1	「管理会計」 (2) 短期利益計画 イ 損益分岐分析と感度分析	2
合 計				4

- (備考) 1 ※欄は検定申請時には記入せず、検定決定後に提出する際に記入する。
- 2 「ページ」欄には、申請図書における発展的な学習内容の記述の掲載ページを示す。
- 3 「記述」欄には、申請図書における発展的な学習内容の記述に付された表題等を示す。
- 4 「類型」欄には、申請図書における発展的な学習内容の記述について、以下の分類により該当する記号を記入する。
- ・ 学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容（隣接した学年等以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む）とされている内容…… 1
 - ・ 学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容…… 2
- 5 「関連する学習指導要領の内容や内容の取扱いに示す事項」欄には、当該学年等の学習指導要領の内容や内容の取扱いに示すどの事項と関連があるのか分かるように記入する。
- 6 「ページ数」欄には、発展的な学習内容の記述が掲載されているページ数を記入する。ページの数え方は以下のとおりとする。「合計」欄には発展的な学習内容の記述の合計ページ数を記入する。
- ・ 0. 25ページ以下… 0. 25ページ
 - ・ 0. 25ページを超えて0. 5ページ以下… 0. 5ページ
 - ・ 0. 5ページを超えて0. 75ページ以下… 0. 75ページ
 - ・ 0. 75ページを超えて1ページ以下… 1ページ
- 7 別紙様式第5-3号の分量は2ページ以内とする。

常用漢字以外の使用漢字一覧表

(下段は初出の箇所, ページ数)

纂	浩	按	梯
《2》	59	263	335

出典一覧表

下記以外の写真・図版は自社作成

申請図書			出典				備考		
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者		発行年次等	
口絵1～2	材料	写真			株式会社河合楽器製作所				
	製造部門_切削部門	写真			株式会社河合楽器製作所				
	製造部門_組立部門	写真			株式会社河合楽器製作所				
	製造部門_仕上部門	写真			株式会社河合楽器製作所				
	製造部門_製品	写真			株式会社河合楽器製作所				
	補助部門_工場事務部門	写真						pixta_59419784	
	補助部門_修繕部門	写真						pixta_60510386	
	補助部門_動力部門	写真						pixta_65206827	
口絵3～4	材料費_材料	写真			株式会社オギノパン				
	加工費_第1工程_材料を投入	写真			株式会社オギノパン				
	加工費_第1工程_パン生地をつくる	写真			株式会社オギノパン				
	加工費_第1工程_成型・焼く	写真						pixta_14387004	
	加工費_第2工程_包装する	写真						pixta_67286377	
	加工費_第2工程_製品	写真			株式会社オギノパン				
	組別製品	写真			株式会社オギノパン				
口絵6	等級別製品	写真						pixta_46249211	pixta_62641930
	製造業_材料費(上)	写真			株式会社河合楽器製作所				
	製造業_材料費(下)	写真						pixta_53135857	
	製造業_労務費(上)	写真			株式会社河合楽器製作所				
	製造業_労務費(下)	写真			株式会社オギノパン				
	製造業_経費	写真						pixta_72426974	pixta_65206827
	サービス業_材料費	写真						pixta_44142035	pixta_43248835
	サービス業_労務費	写真						pixta_58317282	pixta_58809810
サービス業_経費	写真						pixta_58078315	pixta_72426974	
328-343	原価計算基準	文字資料			企業会計基準審議会				

(備考) 1 「申請図書」の欄については次のとおりとする。

- ① 「ページ」の欄には、引用又は新たに作成した教材や資料等の申請図書における掲載ページを示す。
- ② 「名称」の欄には、引用した教材や資料等の申請図書における名称を示す。
- ③ 「種別」の欄には、国語教材、楽譜、写真、図、挿絵、表、グラフ、地図などの別を示す。

2 「出典」の欄については次のとおりとする。

- ① 出典が一般図書の場合は、当該図書の名称（版次を含む。）、掲載ページ、著作者・編集者等、発行者及び発行年次を各欄に示す。
- ② 出典が定期刊行物の場合は、発行年次等欄に巻号、発行月日等を示す。
- ③ 出典が図書でない場合には、備考欄に資料提供者や保有者の氏名又は名称、及び当該資料に付された整理番号等を示すなど、出典を確認することが可能な情報を記入する。

3 出典を基に申請図書の発行者が改変を行った場合又は新たに作成を行った場合は、「備考」欄にその旨を示す。

4 (1) 写真等については、肖像権等の権利処理を必要に応じて行うこと。

- (2) 著作物の掲載に当たっては、著作権法第33条に基づき、掲載する旨を著作者に通知するとともに、補償金を著作権者に支払う必要があることに留意すること（別途契約を締結する場合を除く）。

備考4の内容について確認しました

ウェブサイトのアドレスの掲載箇所一覧表

申請図書			学習上の参考に供する情報			備考
番号	ページ	種別	参照先	URL	概要	
1	≪ 3 ≫	URL および 二次元コード		自社ページ URL	コンテンツリスト	別紙 1 添付
2		二次元コード		自社ページ URL	原価と原価計算	別紙 1-1 添付
3		二次元コード		自社ページ URL	原価計算のあらまし	別紙 1-2 添付
4		二次元コード		自社ページ URL	工業簿記の勘定連絡	別紙 1-3 添付
5		二次元コード		自社ページ URL	材料費	別紙 1-4 添付
6		二次元コード		自社ページ URL	労務費	別紙 1-5 添付
7		二次元コード		自社ページ URL	経費	別紙 1-6 添付

8	二次元コード	自社ページ URL	個別原価計算	別紙 1-7 添付
9	二次元コード	自社ページ URL	部門別個別原価計算	別紙 1-8 添付
10	二次元コード	自社ページ URL	総合原価計算	別紙 1-9 添付
11	二次元コード	自社ページ URL	工程別総合原価計算	別紙 1-10 添付
12	二次元コード	自社ページ URL	総合原価計算と減損・仕損じの発生など	別紙 1-11 添付
13	二次元コード	自社ページ URL	製品の完成と販売	別紙 1-12 添付
14	二次元コード	自社ページ URL	決算と本社工場間の取引	別紙 1-13 添付
15	二次元コード	自社ページ URL	標準原価計算（その1）	別紙 1-14 添付
16	二次元コード	自社ページ URL	標準原価計算（その2）	別紙 1-15 添付
17	二次元コード	自社ページ URL	直接原価計算（その1）	別紙 1-16 添付
18	二次元コード	自社ページ URL	直接原価計算（その2）	別紙 1-17 添付

(備考)

申請図書中に発行者が管理するウェブサイトのアドレス（二次元コードその他のこれに代わるものを含む。）を掲載する場合に、本表を以下のとおり作成する。


- 1 「申請図書」の欄については次のとおりとする。
 - ① 「番号」の欄は、複数のページ等に掲載されたウェブサイトのアドレスが同一のウェブサイトを参照させる場合、一つの番号にまとめて記入する。
 - ② 「ページ」の欄は、ウェブサイトのアドレスの申請図書における掲載ページを示す。
 - ③ 「種別」の欄は、URL、二次元コード等の別を示す。
- 2 「学習上の参考にする情報」の欄については次のとおりとする。
 - ① 「参照先」の欄には、発行者のページから参照させる学習上の参考にするページを作成する団体名などを記入する。
 - ② 「URL」の欄には、実際に参照させる学習上の参考にするページのURLを記載する。なお、参照先が発行者の作成したページである場合は、「自社ページURL」と記入する。
 - ③ 「概要」欄には、参照先における情報の内容を簡潔に記入する。
- 3 申請図書中のウェブサイトのアドレスが参照させるウェブサイトの画面を印刷した紙面には、対応する本表の番号を紙面右上に付記し、本表に添付すること。
- 4 学習上の参考にする情報を示すウェブサイトが発行者において作成したページの場合、参照先のウェブサイトの画面を印刷した紙面を、本表に添付すること。その際、「備考」の欄に「別紙1添付」などと記載し、印刷した紙面右上に「別紙1」などと記入すること。

書名入る

^ 第1編 原価計算の基礎

- | | |
|--|-------|
|  第1章 <u>原価と原価計算</u> | 別紙1-1 |
|  第2章 <u>原価計算のあらまし</u> | 別紙1-2 |
|  第3章 <u>工業簿記の勘定連絡</u> | 別紙1-3 |
-

✓ 第2編 原価の費目別計算

- | | |
|--|-------|
|  第4章 <u>材料費</u> | 別紙1-4 |
|  第5章 <u>労務費</u> | 別紙1-5 |
|  第6章 <u>経費</u> | 別紙1-6 |
-

✓ 第3編 原価の部門別計算と製品別計算



- | | |
|---|-------|
|  第7章 <u>個別原価計算</u> | 別紙1-7 |
|---|-------|

 第8章 <u>部門別個別原価計算</u>	別紙1-8
 第9章 <u>総合原価計算</u>	別紙1-9
 第10章 <u>工程別総合原価計算</u>	別紙1-10
 第11章 <u>総合原価計算と減損・仕損じの発生など</u>	別紙1-11



✓ 第4編 製品の完成・販売と決算

 第12章 <u>製品の完成と販売</u>	別紙1-12
 第13章 <u>決算と本社工場間の取引</u>	別紙1-13

✓ 第5編 標準原価計算

 第14章 <u>標準原価計算（その1）</u>	別紙1-14
 第15章 <u>標準原価計算（その2）</u>	別紙1-15

✓ 第6編 直接原価計算

 第16章 <u>直接原価計算（その1）</u>	別紙1-16
 第17章 <u>直接原価計算（その2）</u>	別紙1-17

別紙1-1

第 1 編

第 1 章 原価と原価計算

はじめに

第 1 章では、原価計算の必要性、そして、製造原価と総原価の違いについて学びます。原価計算というと、製造業というイメージがありますが、サービス業など、すべての業種で必要となる考え方です。

商業簿記
まいどー！
納品です
この商品の
原価は100万円

工業簿記
出来上がりました！
この製品の原価は
いくらなんだ？

テーマ

- 商業簿記と工業簿記
- 工業簿記と原価計算
- サービス業における原価計算の活用方法
- 製品別の原価計算
- 原価とは

0:00:52 0:14:29

別紙1-2

第 1 編

第 2 章 原価計算のあらまし

はじめに

第 2 章では、原価をどのように分類し、どのように集計していくのか、製造原価を求めるための基礎的な手法についてみていきます。また、原価計算の目的によってさまざまな原価計算の方法があることを学びます。

テーマ

- 製造原価の分類
- 賦課と配賦
- 原価計算の目的
- 原価計算の流れ
- 原価計算期間
- 個別原価計算と総合原価計算
- 実際原価計算と標準原価計算
- 全部原価計算と部分原価計算

これをつくるのに
かかったお金って
いくらだろう？

材料費 労務費 経費

いろいろありますよ

ふーん

第 1 編

第 3 章

工業簿記の勘定連絡

第 1 編
原価計算の基礎

はじめに

第 3 章では、計算した原価をどのように勘定記入していくかについて学びます。ある勘定の金額を他の勘定へ移動させるときに使用する振替記入が繰り返し出てきますので、その方法をしっかりと把握しましょう。最終的に損益勘定で利益を算出するまでをみていきます。

テーマ

- 工業簿記の勘定記入
- 工業簿記特有の勘定科目
- 工業簿記の勘定連絡
- 工業簿記の勘定連絡のまとめ

第 2 編

第 4 章

材料費

はじめに

第 4 章では材料費について学習します。製品を作るための素材は材料費ですが、使った工具はどうなるのでしょうか。ここではまず、材料費にはどのようなものがあるのかを学び、それらの計算方法、集計方法、買ってきたとき、製品を製造するために使ったときの記帳方法を学びます。また、材料の消費単価の計算には時間がかかるため、事前に設定した予定価格により記帳することがあります。最後に、その方法について学んでいきます。

テーマ

- 材料費とは
- 材料費の分類
- 材料の仕入れと記帳
- 材料の保管
- 材料の消費と記帳
- 材料の消費高の計算
- 予定価格法による記帳

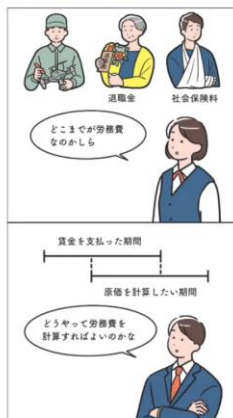
第 2 編
第 5 章 労務費

はじめに

第 5 章では労務費について学習します。労務費にはどのようなものがあるのかを学び、それらの計算方法、集計方法、労務費を支払ったときと、製品の製造のために消費したときの記帳方法を学びます。また、1 時間あたりの賃金である消費賃率の計算には時間がかかるため、事前に設定した予定賃率により記帳することがあります。最後に、その方法について学んでいきます。

テーマ

- 労務費とは 労務費の分類
- 賃金の支払高の計算と記帳
- 賃金の消費高の計算と記帳
- 予定賃率を用いる計算
- 予定賃率による記帳
- 賃金以外の労務費の計算と記帳



第 2 編
第 6 章 経費

はじめに

第 6 章では経費について学習します。まず経費にはどのようなものがあるのかを学び、それらの計算方法、経費を支払ったときと、製品を製造するために消費したときの記帳方法を学びます。

テーマ

- 経費とは 経費の分類
- 経費の消費高の計算と記帳



第 3 編

第 7 章

個別原価計算

はじめに

第7章では、個別受注生産によって製品を作るときに用いられる個別原価計算についてみていきます。特に、電力料など、複数の製品に共通して用いられる製造間接費を各製品へどのように配分していくか、配賦方法と、予定配賦、差異分析までを学びます。

テーマ

- 個別原価計算
- 原価元帳と仕掛品勘定
- 製造間接費の配賦方法
- 製造間接費の予定配賦
- 製造間接費予算の設定方法
- 公式法変動予算による差異分析
- 固定予算による差異分析
- 仕掛品と作業くず



それぞれのピアノを作るための原価はそれぞれのピアノの原価にすればいいのよね

作業員の清掃に対する賃金はどのピアノの原価にすればいいのかな

第 3 編

第 8 章


部門別個別原価計算

はじめに

第7章で学習した製造間接費の配賦は、工場全体の製造間接費について1つの基準で配賦するものでしたが、たとえば、製品を組み立てる部署や製品を塗装する部署など、さまざまな部署が工場にある場合、それぞれの部署で製造間接費を集計して、それぞれに適した配賦基準を用いるほうが、より実態に沿った製造間接費の配賦ができます。ここでは、このような配賦を実現できる部門別計算についてみていきましょう。

テーマ

- 部門別個別原価計算
- 原価部門の設定
- 部門別個別原価計算の手続き
- 部門費配分表の作成
- 部門費振替表の作成
- 製造部門費予定配賦表の作成



工場見取図
切削部門 動力部門
組立部門 工場事務部門

作業ごとにこまかく把握したほうがいいよね

いろいろな作業を支援している作業はどう処理すればいいのかな

第 3 編

原価の部門別計算と製品別計算

第 3 編

第 9 章 **総合原価計算**

はじめに

第 9 章では、同じ製品を大量生産するときに用いられる総合原価計算についてみていきます。総合原価計算では、投入した原価の合計額を求め、そのうちのどれくらいが月末に未完成品の原価として残っていて、どれくらいが完成したかに分けて、製品の原価を計算していきます。まずはその計算方法として単純総合原価計算についてみていき、続いて、大きさや厚さ、重量などの違う製品を同時に製造するさいに使う等級別総合原価計算と、複数の種類の製品を同じ工場内で製造するさいに使う組別総合原価計算についてみていきます。

テーマ

- 総合原価計算とは
- 単純総合原価計算
- 月末仕掛品原価の計算（平均法の場合）
- 月末仕掛品原価の計算（先入先出法の場合）

第 3 編

原価の部門別計算と製品別計算

月末

第 3 編

第 10 章 **工程別総合原価計算**

はじめに

たとえばチョコレートパンを作るときを考えてみましょう。パンをこねて焼く工程、チョコレートを詰めて包装する工程、というように、いくつかの工程を経てチョコレートパン（製品）が完成します。第 10 章では、このように、2つ以上の作業工程によって製品を製造するときに使用する工程別総合原価計算をみていきます。

テーマ

- 工程別総合原価計算とは
- 工程別総合原価計算の計算方法
- 工程別総合原価計算の記帳
- 半製品がある場合

第1工程
仕込み・焼き上げ工程

第2工程
仕上げ・包装工程

小麦粉は第1工程の材料費、パッケージの袋は第2工程の材料費ね

第 3 編

第 11 章

総合原価計算と減損・仕損じの発生など

はじめに

製造過程で原材料の一部が蒸発してしまったり、製品に傷がついてしまったりすることがあります。これらを減損・仕損じといいます。製品の製造にはつきものです。第 11 章では、総合原価計算において減損や仕損じについて、どのように処理していくかみていきます。

また、お豆腐を作る過程でできるおからや、日本酒を作る過程でできる酒かすなどを副産物、木製家具を作る過程で出てくる木くずなどを作業くずといいます。これらの処理方法についてもみていきます。

テーマ

- 総合原価計算における減損
- 正常減損費の処理
- 正常仕損じの処理
- 副産物・作業くずの処理



第 4 編

第 12 章

製品の完成と販売

はじめに

製品が完成したら、集計した原価を、仕掛品勘定から製品の勘定へ振り替えていきますが、このときに作成する帳ひょうは、個別原価計算と総合原価計算で異なります。それぞれについて順にみていきましょう。

テーマ

- 製品が完成したとき
- 製品を販売したとき
- 販売費及び一般管理費



第 4 編

第 13 章

決算と本社工場間の取引

はじめに

第 13 章では、まず、製造業（工企業）における決算をみていきます。商品売買業（商企業）で作成する貸借対照表と損益計算書に加えて、製造業では製造原価報告書を作りますが、これはどういうものか、なにをどのように記載するのかをみておきましょう。また、貸借対照表と損益計算書も、商品売買業とは少々異なる部分がありますので両者の違いについてもみておきましょう。最後に、本社と工場の間でどのように分担して記帳をしていくのかについてみていきます。

テーマ

- 工企業の決算
- 月次決算と年次決算
- 財務諸表の作成
- 本社工場間の取引

第 4 編

製品の完成・販売と決算

第 5 編

第 14 章

標準原価計算(その1)

はじめに

ここからは標準原価計算について学習していきます。標準原価計算とは、事前に、「このくらいの原価で作ろう」という目標となる原価を設定し、その原価と実際にかかった原価とを比較して、どこを改善すれば目標原価に近づけられるのかを検討するための原価計算です。第 14 章では、目標原価である標準原価を設定するための方法と、それを使った原価の集計方法をみていきましょう。

テーマ

- 標準原価計算
- 標準原価計算の手続き
- 原価標準の設定
- 標準原価の計算

第 5 編

第 15 章

標準原価計算(その2)

はじめに

第15章では、標準原価計算における差異分析をみていきます。原価標準は直接材料費、直接労務費、製造間接費それぞれに設定しているので、これらについて一つずつ差異を分析していきます。続いて、標準原価計算における勘定記入をみていきます。どの勘定で差異を把握するかによって、2つの方法があります。最後に標準原価計算を採用していると、損益計算書にはどのように記載されるかを学習しましょう。

テーマ

原価差異の計算 原価差異の分析

標準原価計算の記帳方法 損益計算書の作成

第5編

標準原価計算

第 6 編

第 16 章

直接原価計算(その1)

はじめに

直接原価計算では、原価を変動費と固定費に分けて計算します。変動費とは、操業度に応じて変動する原価で、固定費は、操業度にかかわらず一定額発生する原価です。原価をこの2に分けることで、利益管理に役立つことを、第2編～第4編で学習してきた全部原価計算と比較しながらみていきましょう。

テーマ

直接原価計算 直接原価計算の損益計算書

利益計画

第 6 編

第 17 章 直接原価計算(その2)

はじめに

利益も損失もない売上高を損益分岐点売上高といいますが、これを利用することで、赤字にならないためには売上げがいくら以上ならよいか、また利益を30万円出すためにはいくつ売ればよいかなど、利益管理に役立てることができます。この手法をCVP分析といいます。

テーマ

- CVP分析
- 損益分岐点売上高
- 目標営業利益を達成する売上高
- 損益分岐図表
- 原価の固定分解
- 損益分岐点比率と安全余裕率

第 6 編 直接原価計算

0:00:03 0:34:47

